

平成22年野球殿堂入り表彰式

事務局長 佐藤 宏

平成22年野球殿堂入り表彰式は7月23日(金)、福岡ヤフドームで行われたオールスター第1戦の試合開始前に、多くの観客や出場選手全員が見守るなかで行われました。

今回野球殿堂入りされた東尾 修さんは1969年に和歌山の箕島高校からドラフト1位で西鉄に入団されました。2年目に11勝し、以来ライオンズ一筋にエースとして活躍。太平洋時代の75年に23勝で最多勝と最多奪三振のタイトルを獲得。西武になった後の83年には最多勝と最優秀防御率を獲得し、MVPに選ばれました。87年にも再びMVPに選出され、5回の日本シリーズ優勝に貢献されました。打者の内角を鋭く突くピッチングで通算251勝を達成されました。

江藤 慎一さんは熊本商業から日鉄二瀬を経て59年に中日に入団。1年目から130試合に出場し、活躍されました。ファイトあふれるプレーで「闘将」と呼ばれ64年から2年連続首位打者を獲得。ロッテ移籍後の71年にも首位打者となり、日本プロ野球史上初の両リーグでの首位打者となりました。ユニフォームを着ていないときは、いつも革ジャン姿だったという「闘将」にふさわしい逸話の持ち主でもありました。プロ野球引退後静岡県天城湯ヶ島町に「日本野球体育学校(江藤塾)」を設立し、アマチュア選手の指導にあたられました。

表彰前、控え室に東尾さんの愛娘の理子さんと石田 純一さんご夫妻がお祝いに駆けつけるというサプライズもあり、大いに盛りあがりました。

両軍の選手・監督・コーチが場内アナウンスに従って整列し、国歌が演奏された後、スクリーンで顕彰者が紹介されるなか、東尾 修さん、故・江藤 慎一さんの実弟であり、慶應義塾大学野球部監督として、今春の東京六大学野球で同校を優勝に導かれた江藤 省三さんが登場されました。その後、(財)野球体育博物館・加藤 良三理事

長よりお二方に記念のレプリカが贈られました。引き続き、花束贈呈が行われ、かつてのチームメイト、師弟関係でもあった福岡ソフトバンクホークス秋山幸二監督から東尾 修さんへ、また巨人時代共に過ごされた王 貞治会長から江藤 省三さんへそれぞれ贈呈されました。なお、江藤 慎一さんの2度の首位打者はいずれも王さんの三冠王を阻むものであったことも付記しておきます。記念撮影に続き、東尾さんより力強いご挨拶があり、福岡のファンの喝采を浴びました。

なお、もうお一人の特別表彰者である古田 昌幸さんの表彰式は、8月27日(金)、東京ドームで行われる都市対抗野球の開会式の後に行う予定です。



左から 秋山 幸二監督、東尾 修氏、加藤 良三理事長、江藤 省三氏、王 貞治会長



2010年夏休み情報

① 「野球で自由研究！」

期 間 ▶ ～8月31日(火)

会 場 ▶ 野球体育博物館 図書室ほか

野球には、歴史や用語、野球用具、野球場など小・中学生の自由研究のテーマになるものがたくさんあります。館内の展示や図書室の本などを使って調べたり、硬式用のキャッチャーマスクやプロテクター、バット、ボール、ユニホームなどに触って大きさや重さを実感したり、楽しく自由研究ができるようスタッフがお手伝いします。



② 「バット製作実演」

期 間 ▶ 2010年8月17日(火)、18日(水)

時 間 ▶ 11:00～12:00、13:30～14:30、
15:00～16:00 予定

会 場 ▶ 野球体育博物館 野球殿堂ホール

協 力 ▶ ミズノ株式会社

夏休み恒例、バット削りの実演を今年も開催します！ミズノ株式会社のご協力により、クラフトマンによるバット製作の実演に加え、バットにまつわるいろいろな質問にもお答えします。自由研究にも活用できるイベントです。



③ 「夏休み親子ボール製作教室」

日 時 ▶ 2010年8月19日(木) 第1回 13:00～14:00、第2回 14:30～15:30

会 場 ▶ 野球体育博物館 野球殿堂ホール

ミズノのスタッフ指導のもと、硬式ボールの製作体験（革の縫い合わせ）のイベントを行います。参加者の募集は締め切りましたが、ボール製作のようすは見学できます。

展示 ▶ 平成22年 野球殿堂入り特別展

会 期 ▶ ～9月26日(日)

会 場 ▶ 野球体育博物館 野球殿堂ホール

東尾 修氏、江藤 慎一氏、古田 昌幸氏の野球殿堂入りを記念して、「平成22年 野球殿堂入り特別展」を開催します。3氏ゆかりの資料や写真を展示し、経歴や記録などを紹介します。





殿堂入りの人々を語る (28)

子規と東京六大学野球のことなど

正岡 浩 (正岡 子規氏 子孫)



2002年殿堂入り
正岡 子規氏レリーフ

外交官であった私の祖父・加藤 拓川^{たくせん}は、若い頃の子規の後見人的立場にあり、16歳の子規に上京を促したのも彼であった。拓川の三男坊の父・忠三郎は、従兄弟の子規の死後に、その妹・律の養子となって正岡家を継ぐことになった。

そういう経緯もあって、2002年の子規の野球殿堂入りに際し、坊ちゃん球場で行われたオールスター第2戦の5回裏に、私が子規のレリーフを川島 廣守野球体育博物館理事長より頂くことになったが、その前日に道後の旅館で渡辺 融氏と同宿になった。氏は私が学生の頃に東大野球部の監督をしておられたとのことで、昔の大学野球の話になった。

大の野球好きで知られる子規が、旧制一高(当時は、「大学予備門」)に在学したことであり、此处で一高・東大野球部の歴史を暫し辿ってみることにする。

私が母校の早稲田と共に東大を応援していたのは、京大教授であった母方の祖父から、一高時代の同級生で「伝説の投手」守山 恒太郎(注1)の話をよく聞いていたからかもしれない。また、私は目白の親戚の家に寄宿していたことがあるが、すぐ近くに内村 祐之(注2)氏の住居があつて時々お姿をお見かけした。氏も往年の一高の名投手で、当時のプロ野球コミッショナーで精神医学の権威でもあった。(注1・1966年殿堂入り、注2・1983年殿堂入り)

私の同時代には、東大には岡村 甫^{はらむ}という下手投げの好投手がいて、強打を誇る早大打線も屢々苦杯を喫していた。昭和35(1960)年春の緒戦にこの投手に完封され、翌日やっと1点を入れて勝ったが、この試合は5万人がスタンドを埋めた。岡村は大学では17勝25敗の成績で、プロでも立派に通用するといわれたが、彼は学者の道を選んだ。岡村の4年後輩の新治 伸治(大学での実績8勝43敗)は、大洋ホエールズ(現・横浜ベイスターズ)で活躍した。

以前の東大は万年6位のチームではなく、戦後直ぐには2位になったこともある。昭和50(1975)年代の記録を調べると、4位が2度、5位が6度もあり、主な投手は大山 雄司・大越 健介(NHKの「ニュース9」に出演)、「公立の星」として甲子園に出場した市川 武史などである。

私が上京した頃は、プロ野球と東京六大学の人気がほぼ拮抗していた最後の時代で、昭和33(1958)年は立教の黄金期が続いて4連覇したが、翌年から早慶が勢いを盛り返し、昭和35(1960)年秋も早慶戦に優勝がかかった。慶応は甲子園で早実の王 貞治投手(注3)と人気を二分した清沢 忠彦と角谷 隆の左右の両エースであったのに対し、早稲田は金沢 宏がやや不調で頼りは安藤 元博1人であった。両校は熱戦をくりかえして、引き分け試合が続く、これが「早慶6連戦」となった。(注3・1994年殿堂入り)

当時の神宮は外野が芝生席であった関係から、連日6万5千人の大観衆が入り、NHK他殆どどのTV局がゲームを中継していた。安藤は延長2試合を含めて5完投し、而も最後は4連投であった。アンダースローの独特のフォームから、腕も折れよと力投を続ける彼の姿は、何か悲壮にさえ感じられて全国の野球ファンに大きな感動を与えた。4試合目の「日没引き分け」の後、両校の応援団が暗闇の中で肩を組み、校歌や応援歌を交互に延々と歌い続けたのも、青春の貴重な思い出である。

話を子規に戻そう。4年前に東京・上野公園内に「子規記念球場」が出来た時は、台東区からお招きを受けた。また、私が育った伊丹市(兵庫県)では、毎年「子規記念野球大会」が開かれ、今秋で9回目を数えるが、子規の末裔として身に余る光栄といわねばならない。伊丹は昔から多くの名選手を輩出しているが、現在プロ野球で活躍している田中 将大(楽天)、坂本 勇人(巨人)、中島 裕之(西武)、北川 博敏(オリックス)は全員伊丹の出身である。

私は関西に本拠を置く某球団の熱狂的ファンの一人であるが、野球ほど多くの人たちに愛されて面白く心が躍るスポーツは他になく、何十年見続けても飽きることがないのは、不思議でさえある。

私はすでに古希を幾つか過ぎてはいるが、年輩世代が缶麦酒を片手にナイターを楽しんでいる時、私達の心は家の近くの原っぱで母親が縫ってくれた粗末なグローブで薄暗くなるまでボールを追っていた、あの遠い少年の日々に返っているのかもしれない。



知ってほしいこんな資料(71)

明治時代のキャッチャーマスク (複製品)



野球が進化するにつれて、捕手も本塁のかなり後方で投手のゆるやかな投球をワンバウンドで捕球するスタイルから、本塁のすぐ後ろで投手の素早い投球をノーバウンドで捕球するようにプレースタイルが変化しました。その強い投球から顔を守る用具が必要となり、米国では1877年に、フェンシングの面からヒントを得て考案された最初のキャッチャーマスクが登場しました。日本では明治20年代(1890年代)になり、アメリカのフェンシングに対して、剣道の面から考案されたマスクが使われるようになりました。

写真のキャッチャーマスクは、当館開館時(1959年)に製作された複製品です。明治時代の写真や書籍を参考にして、また、当時ご健在だった明治時代に野球をしていた方々のご意見もうかがって作られたそうです。中央の金属部分は剣道の面金(めんがね)そのものを加工して使用されています。

学芸員 新 美和子



こんにちは図書室です



先日60回目を迎えたオールスターゲームは福岡と新潟で熱戦が繰り広げられました。今回は1951年に行われた第1回オールスターゲームの様子を図書室で所蔵している報知新聞の記事から紹介します。

7月4日甲子園球場で行われた第1戦。「午前八時半開場を待ちかねてなだれ込んだファンは数千を数え(7月5日付1面)」ました。今でもオールスター史上最多観客数である48,671人のファンが見守る中、ファン投票、記者選考、監督推薦で選出の選手、監督、コーチ56名はバス2台に分乗してグラウンドに登場し、ファンを驚かせました。小雨の中、福井 盛太コミッショナーの始球式により日本プロ野球史を飾る第一回オールスター戦の火蓋が切られました。

場所を後楽園球場に移した第2戦も観客「八千名が早朝から長蛇の列を(7月8日付)」作るほどのファンが球場を埋めました。第3戦も「定刻より三十分も早く七時半に開門という騒ぎ(7月9日付)」で、ファンがオールスターゲームを心待ちにしていたのがわかります。

当時の報知新聞は1日に2面ほどでしたが、3試合とも一面で大きく取り上げています。また、試合経過が打席ごとになっており、試合の流れを詳しく追うことができます。図書室では報知新聞をはじめ当時の雑誌も閲覧できますので、ぜひご利用ください。



1951年7月9日 オールスターの熱戦を伝える報知新聞

司書 茅根 拓

前号の6行目にある「北海道大学100年史」は「北海道大学野球部100年史」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。



コラム／博覧・博楽 (35)

銚子が燃えた夏

明石 真和 (野球体育博物館維持会員)

「配達帰りに販売所をのぞいたけど、商業、まだ無得点だったよ！」番頭さんが、店にもどるなりこう言った。1965 (昭和40) 年、私が小学校3年の夏のことである。甲子園大会の予選が始まり、町中が、木樽 正明投手 (後に東京、ロッテ) を擁する県立銚子商業高校に期待していた。地元では、「銚商」あるいは「商業」という呼び名で親しまれている学校である。日用品菓子卸売業の我が家でも、銚商出身の父が、毎日、お客さんや店の人たちと野球の話をしてきた。

今のように、地方大会がテレビ中継されたり、携帯電話で何でも分かる時代ではない。一番の速報は、駅前の朝日新聞販売所に張り出される手製の紙スコアボードであった。父や祖父に連れられ、何度か販売所に行ったが、いつも人垣ができていた。試合場からの電話を受けた係員が、「銚商」の枠に得点を書き込むたびに大歓声があがる。「よし!」「いけるぞ!」…イニングごとの情報に一喜一憂し、勝つと「これでゆっくり仕事ができる!」とばかり、安堵の笑みを浮かべながら、三々五々帰っていく。

危なげなく地区優勝を飾ったチームは、甲子園でも勝ち進んだ。準々決勝、準決勝になると、町の熱気は最高潮に達し、甲子園球場では何本もの大漁旗が打ち振られた。残念ながら、最後の決勝戦で三池工業に敗れ、準優勝に終わったのだが、それでも、帰郷後の市内パレードは物凄い人出だった。選手は少年たちの憧れとなっていた。「俺たちも銚商に行って、甲子園に出よう」、学校の仲間と草野球に親しむ日が続いた。同じ頃、遠い九州でも、三池工業、原 貢監督のご子息の辰徳少年が、「お兄ちゃんたちの優勝」に感激し、野球を志すようになったと聞く。当時ユニフォームは贅沢品で、みんな普段着のまま空き地に集まっての三角ベース。日本全国どこでも見られた光景だろう。そんな時代であった。

だが、こうして年中一緒に遊んでいると、いやでも上手下手が分かってしまう。野球のうまい子はどんなスポーツも万能で、彼らにはどうしてもかなわなかった。中学になると、私の興味は、次第に野球からサッカーに移り、高校も、進学校の市立銚子を選んだ。ブラジルのペレ、ドイツのベッケンバウアーやミュラーに夢中になって、サッカー部に入った。そのころのドイツ代表チームへの憧れが、今の職業 (ドイツ語教員) につながっている。一方、小・中学校時代の野球仲間たちは初心を貫き、1973 (昭和48) 年の夏の甲子園大会では江川 卓投手の作新学院を破り、翌1974 (昭和49) 年の夏には、ついに全国制覇を成し遂げた。町はそのたびに沸きかえった。

銚商からプロに入った選手は多い。その何人もが「商業の練習のほうが、プロよりきつかった」と語っている。また当時の監督さんのご親戚の話では、「負けると自宅の電話が鳴り続け、苦情を言われるので、家に帰れずホテルに泊まっていたこともあった」という。

こういうエピソードを聞くと、すぐにブラジルのサッカーが頭に浮かんでくる。リオデジャネイロの海岸やサンパウロの路地裏で、草サッカーに興じる子供たち。そんな中から自然に名手が生まれる。「あんちゃん、上手だなあ!」とほめる大人たち。お家芸には、見る目を持った人たちが周囲にいることも重要だ。ほめられた少年は、「大きくなったら代表選手になるんだ!ペレやジーコのようにになりたい」と願う。選ばれた者だけが、ワールドカップに出られる。勝てば官軍だが、負ければ、監督や選手に容赦なく罵声が飛ぶ。「ブラジル代表」を「銚商野球部」、「ワールドカップ」を「甲子園」、熱狂的な「サポーター」を「野球ファン」におきかえれば、まさに当時の銚子なのだ。

最近では、少子化のせい、草野球をする子供を見かけない。あの時代の熱気はどこにいったのだろうか…。今でも、暑い季節になると、子供の頃の「熱く燃えた夏」が思い出され、そのつどあるメロディが心に響いてくる。相馬 御風作詞、東儀 鉄笛作曲、銚子商業高等学校校歌。

“幾千年の昔より 海と陸との戦いの 激しきさまを続けつつ 犬吠埼は見よ立てり”

校名の出でこない校歌。甲子園で勝利のたびに耳にした、勇壮で力強い曲。あのころの故郷の熱気そのものである。



野球体育博物館 トピックス

(2010年4～6月編)

【4月24、25日】久保田名人のバット製作実演

2010年の野球シーズン開幕を記念して、ミズノテクニクス株式会社の久保田 五十一名人によるバット製作実演を開催しました。

両日も、たくさんのお客様に久保田名人の実演とお話を楽しんでいただくことができました(協力 ミズノ株式会社)。



【5月4日】入館者500万人達成



5月4日午前11時50分、野球体育博物館は入館者500万人を達成しました。

1959年6月12日の開館以来、51年目での大台到達となりました。

500万人目のお客様となった福島市の青柳さんご一家には、当博物館から記念品(イチロー選手モデルの硬式用木製バット)を贈呈しました。

また、「入館者500万人達成日予想クイズ」には680通の応募がありました(募集期間4月7日～21日)。5月4日と予想した54通から抽選を行い、3名様が当選、プロ野球選手モデル硬式用木製バットを贈呈しました(当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきました)。

【5月5日】GWイベント バッターボックス体験にチャレンジ!

各回(10:30～、13:00～、15:00～)30人、合計90人の小・中学生が「バッターボックス体験コーナー」にチャレンジしました。結果は、ホームラン5人、3安打9人で計14名に賞品のサインボールを、1安打、2安打のお子さんにはシャーペンをプレゼントしました。

また、4月29日～5月5日のGW期間中、すべての小・中学生の入館者(約2,000人)に、東京ドーム型ピンバッジをプレゼントしました。



【5月11日】OBクラブイベントで黒江氏が来館



社団法人全国野球振興会(日本プロ野球OBクラブ)主催のイベント「夢・未来応援プロジェクト ブルペン」が応接室で開催され、同会理事長の黒江 透修氏(元巨人)が来館、宮城県大郷町の中学生4名と質疑応答を行いました。

【5月14日】「ライオンズ・クラシック2010」記者会見

埼玉西武ライオンズ「ライオンズ・クラシック2010」の記者会見が殿堂ホールで行われました。記者会見には東尾修氏(2010年殿堂入り)が出席されました。

球団や連盟等関連団体の記者会見を殿堂ホールで開催するのは初の試みとなりました。



【5月25日】張本氏が来館

張本 勲氏(1990年野球殿堂入り)が来館されました。

韓国放送公社(KBS)の特別番組の撮影で、当館の応接室や野球殿堂、展示室でインタビューが行われました。



【6月3日】クルーン投手が来館

読売ジャイアンツのマーク・クルーン投手がご家族と来館されました。クルーン投手は2006年以来3度目の来館で、見学中の中学生との記念撮影にも気さくにに応じていました。





2010年度の維持会員を募集しています!

財団法人野球体育博物館は、昭和34年に野球専門の博物館として開館して以来、野球や体育に関する資料を収集・保管・公開してきました。バット等の実物・写真資料は約3万点、図書・雑誌は約5万冊を収蔵しており、展示や閲覧という形で多くの方々に利用していただいております。また、年1回競技者表彰委員会と特別表彰委員会にて野球界の功労者を選出し、「野球殿堂入り」として表彰しています。維持会員とは、このような博物館の事業にご賛同いただいた方々に、維持会費をお願いし、博物館の運営をご支援いただくものです。

1. 会員特典

- (1)当博物館発行「ニュースレター」(季刊)を送付します。
 - (2)無料で博物館に入館できる優待証を発行します。
 - (3)アメリカの野球博物館(クーパースタウンにある)にも無料で入館できます。
 - (4)会員以外の方でも利用できる博物館招待券を差し上げます。
 - (5)イベント情報などを優先的にご案内します。
 - (6)博物館で販売している商品が10%引きになります。
- *新個人会員には上記の特典のほか、「野球殿堂 1959-2009」を進呈します。(ジュニア会員を除く)
*新ジュニア会員には上記の特典のほか、「野球体育博物館オリジナルピンバッチ」を差し上げます。

2. 会員の種類と会費

年会費(4月~翌年3月迄)
法人会員 1口 100,000円 個人会員 1口 10,000円
ジュニア会員(小・中学生) 2,000円
*ご入会月により、個人会員の初年度年会費が割引になります。

3. ご入会の方法

- ①館内にあります「維持会員募集のご案内」の「入会申込書」に、必要事項をご記入のうえ、係りにお渡しいただくかお送りください。「維持会員募集のご案内」は郵送もいたしますので、ご希望の方は博物館までご連絡ください。
- ②「入会申込書」が届きしだい「維持会費のご請求書」をお送りしますので、維持会費をお振込みください。

お問い合わせ 野球体育博物館 業務部
皆様のご協力、よろしくお願い申し上げます。

博物館からのお知らせ

販売しています!

◆ 東尾 修氏野球殿堂入り記念直筆サインボール



平成22年に野球殿堂入りされた東尾 修氏の直筆サインボールを販売します。
ご購入ご希望の方は、当館ホームページをご覧ください。
(<http://www.baseball-museum.or.jp>)
*数に限りがありますので、お求めはお早め。

商品説明

[ボール]NPB公式ボール 直筆サイン入り
[素材]ケース:ガラス/台座:木製 [色]ケース:透明/台座:ブラウン
[サイズ]ボールケース:縦14.5cm×横13cm×奥行(台座含)13cm
[付属品]野球体育博物館証明書、野球殿堂2009(書籍)、
野球体育博物館ご入館券(6枚)

◆ プロ野球公認球



1個 1,600円(税込)
コミッショナー事務局(NPB)では、日本野球独特の「反発テスト」をしています。超高速マシンから打ち出したボールを鉄板にぶつけ、ぶつかる前の速度と跳ね返りの速度を計り、その比(反発係数)を出して、一定範囲に納まるものを「合格」としています。マシンと連動のパソコンで計測されますが、専門的にいいますと「秒速75メートル(時速270キロ)のところでは反発係数0.41~0.44の範囲に入ると合格」となります。この基準を上回ると「飛ぶボール」で不合格、下回ると「飛ばないボール」でやはり不合格です。合格したボールに「試合に使ってよろしい」との合格印「Official Game Ball」が押されます。このコミッショナー印の押された試合球は、一般には販売していません。それほど「貴重」なのです。

※郵送希望の方は、「公認球希望」と明記の上、代金(公認球代+梱包送料)を現金書留で当博物館までご送付下さい。
梱包送料:1個 250円 2~3個 400円 4~6個 600円
送付先:〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

財団法人野球体育博物館 公認球係
※7個以上お求めの方は、当博物館(TEL:03-3811-3600)までお問合せ下さい

◆ グリーンリストバンド



500円(税込)
プロ野球選手が装着し、温暖化防止をアピールする「グリーンリストバンド」を当館でも販売いたします。
売上金の一部はCO₂削減のための植樹活動に役立たせていただきますので、温暖化防止活動にご賛同いただける皆様のご参加・ご協力をぜひお願いいたします。

▶ 理事会・評議員会

平成22年度の理事・評議員会を6月14日(月)午前11時より、東京ドームホテルにて開催しました。
理事および監事、評議員の計35名(意見書出席を含む)の出席があり、次の議題について、承認されました。

議題 平成21年度の事業報告・決算報告・監査報告承認の件
なお、平成21年度事業報告・決算報告および平成22年度事業計画・予算は、当館ホームページでご覧いただけます。

▶ 評議員の交代

就任 新 純生氏(ヤクルト球団常務取締役)
飯田 則昭氏(西武ライオンズ専務取締役)
村上 尚之氏(福岡ソフトバンクホークス 執行役員渉外部部長兼チーム運営部長)

退任 倉島 今朝徳氏、角田 雅司氏

▶ 訃報

2002年に野球殿堂入りされた田宮 謙次郎氏が5月5日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

● 博物館のご案内

場 所 東京ドーム21ゲート右
開館時間 3月1日~9月30日 AM10時~PM6時
10月1日~2月末日 AM10時~PM5時
(入館は閉館の30分前まで)
入館料 大人 500円(300円) } ()は
小・中学生 200円(150円) } 20名以上の団体
65歳以上 300円
休館日 月曜日(祝日、プロ野球開催日、春・夏休み中の月曜日は開館)
年末年始(12月29日~1月1日)

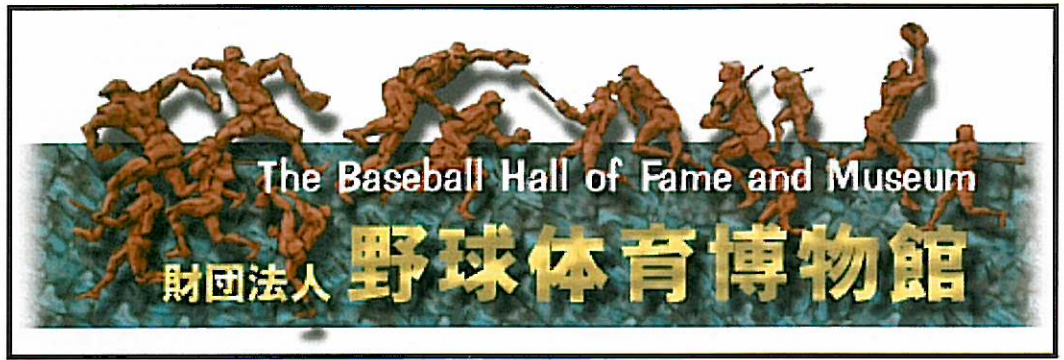
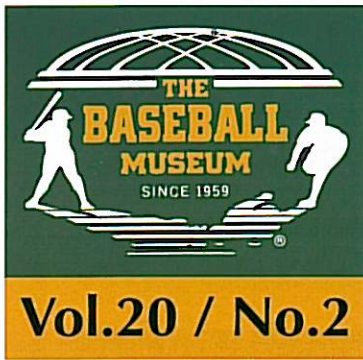
《8月・9月・10月の休館日》

9月 13日・27日 10月 4日・18日・25日
*9月12日(日)まで無休です。

●編集後記 今回は、7月23日に行われた東尾 修氏、江藤 慎一氏の表彰式をお届けしました。古田 昌幸氏の表彰式は、8月27日の都市対抗野球大会初日に行われますので、次号でそのようすをお伝えします。

Newsletter Vol.20 / No.2

2010年7月25日発行
編集・発行 財団法人 野球体育博物館
〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61
Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369
<http://www.baseball-museum.or.jp/>
定価 100円



リレー随筆(41)

野球を通じて日韓交流

競技者表彰委員会幹事 峰 圭一(読売新聞西部本社)

私の住む福岡市は都市基盤がコンパクトに整備され、どこへ行くにも便利な街だ。博多港国際ターミナルもその一つ。高速船ジェットfoilが毎日数往復、韓国・釜山と海路で結んでいる。

4月上旬、出張でこの航路を利用した。高速船の最高速度は時速80km。左手に対馬を眺めながら玄界灘を一気に北上し、島影がとぎれたと思ったら、そこはもう釜山港だった。対馬海峡の幅はおよそ200km。対馬と釜山はわずか50kmしか離れていない。高速船の所要時間は2時間55分。さしずめ新幹線なら博多から新大阪——そんな手軽な感覚だった。

両都市の往来は盛んだ。福岡—釜山間には高速船のほか、カーフェリーや航空路線もある。高速船だけをみてもピーク時は年間60万人を運んだ年もあった。ウォン安でやや減少したとはいえ、就航20年目を迎えた今年、累計乗客数は400万人を突破した。釜山に焼き肉を食べに行く1泊2日の格安ツアーなら、2万円でおつりが出る。韓国側にとっても同じ。福岡市内の観光スポットでは、英語、中国語に加え、ハンダルの案内表示が併記され、韓国語の会話があちこちから聞こえてくる。海外というより海峡を挟んだ「隣町」といえるかもしれない。

福岡市と釜山広域市は姉妹都市の間柄でもある。両市は協力して「釜山・福岡アジアゲートウェイ2011」キャンペーンを展開。その観光交流事業として2月28日にヤフードームで行われたのが、プロ野球の福岡ソフトバンクホークスと韓国・釜山ロッテジャイアンツの親善試合だった。韓流スター、女優チェ・ジウさんの始球式で盛り上がった球場には、両チームのファン2万8500人が詰めかけた。釜山は、1982年の韓国プロ野球発足時からロッテジャイアンツがフランチャイズを置く。街を歩けば、縦じまユニホームが特徴の、ロッテジャイアンツのマスコットであふれている。福岡、釜山ともに熱狂的な野球ファンが多く、今後可能性を秘めたイベントだといえるだろう。

日韓プロ野球の距離は徐々に縮まっているように感じる。実力的にはすでに互角。ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で宿命のライバルとなる一方、活躍した韓国代表選手が海を渡って日本球界に飛び込んでくる。今年とはくに千葉ロッテマリーンズで中軸を任される金 泰均、しぶとい打撃でホークス打線に刺激を与える李 杓浩が注目を集める。昨年からは日韓クラブチャンピオンシップも開催され、ファンの往来が増せば、この先さらに交流が深まるのは間違いない。

福岡市の中心部、かつて西鉄ライオンズが本拠地にしてきた平和台野球場跡では、筑紫の「鴻臚館(こうろかん)」遺跡の発掘作業がいまも続いている。7世紀に設けられた迎賓館跡で、当時、大陸や半島から外交、交易のために海を渡ってきた人たちをもてなしたという。国際交流の、いわば象徴的な存在だ。それから1300年余。博多湾のランドマークは、鴻臚館からヤフードームへと変わった。ぜひ一度、海からの眺めも堪能してほしい。海路、博多湾に入ってくる船からは、赤銅色のドームの大屋根が目に見え、そこは「野球」を合言葉にした、ホスピタリティーあふれる現代の「鴻臚館」だ。

先述のキャンペーンのキーワードは「情」。福岡、釜山ともに人情豊かな土地柄といわれ、政治の中心地から遠く離れている点でも似通っている。国の枠にとらわれず、アジアの玄関口としてこれまで以上に連携を深めてほしい——出張帰りの船中からそう期待した。